

人と認知症と 向き逢うための 基本の関わり方 (所作) 五ヶ条



関わり方（所作）

その一

【目を逢わせる】



【距離と視界と目線と視線を逢わせる】

- a) 視界に入る（視線を意識した近づき方）
- b) 目線の高さに気を配る
- c) 視線を逢わせる
- d) 距離を保つ（親密・パーソナルを上手に組み合わせる）

関わり方（所作）

その二

【身を逢わせる】



【姿勢や態度や表情を逢わせる】

- a) 前かがみになること
 - ・ 興味を示している
 - ・ 話している相手とともに行動している
- b) 物理的な壁を作らないこと
 - ・ ロの前に手をおいたり、ひじを立てたり、腕や足を組む
 - ・ 聞くことに対する物理的障害になる
- c) 目で聞くこと
 - ・ 話しながら相手を水平に見る
 - ・ ただし、横目で見たり、顔をしかめない
 - ・ 目を大きく開き、目で興味と楽しさを示す
 - ・ 自分が話している時に相手にこんな顔をしてもらいたいと思うような顔を目指す

関わり方（所作）

その三

【話し逢わせる】



【大切な存在であるというメッセージをおくり続ける】

a) 相手に挨拶をする

⇒ コツは、先に挨拶をする

b) 相手に対して関心をもつ

⇒ 相手との経験、気持、見解、そして日々の生活の
些細な出来事を題材に伝える

c) 相手に対して興味を持つ

⇒ 相手の行動、態度、反応、しぐさ、話し方など、
いづれも興味深く存在する

相手に「あなたは大切な存在である」というメッセージをおくる

⇒ できる限りあらゆる形でメッセージを送り続ける

関わり方（所作）

その四

【聴き逢わせる】



【熱心に聴いていることを相手に知ってもらう】

a) 顔を使うこと

・眉を上げる ・ほほえむ ・驚いて口を開ける ・感情を伝える

b) 声を使うこと

「はい」「わかります」「大変ですね」「いいですね」

「そうですか」「へえ～」「なるほど」 など…

c) 自分のわかっている点を、いつも確かめていくこと

もし何かわからない点があれば聞けばよい

⇒ むしろ話している人にとってはうれしいことである

d) 相手の使った言葉を繰り返してみること “おうむ返し”の術

e) 自分の行為や様子を言葉に置き換えて伝えてみる

感情は行動によって引き起こされます（感情を伝える）

興味を持っているように行動することで、興味がわいてきます

関わり方（所作）

その五

【触れ逢わせる】



【触れることで心地よいメッセージを伝える】

a) 手のひら全体で包み込むように（介添えの手のように）

b) やさしく・ゆっくり皮膚を逢わせる

人と認知症と向き逢うための 基本の関わり方（所作） 五ヶ条

